

第 24 回 NIE 全国大会 宇都宮大会 深い対話を育む N I E

国語科 実践資料 令和元年 8 月 2 日(金)

## 言語活動のゴールとしての新聞記事の活用



**あなたのお悩み，解決します！**

～わたしの考えたこと～ (4年生)

宇都宮大学教育学部附属小学校 **見目 真理**

[m-kemmoku@cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:m-kemmoku@cc.utsunomiya-u.ac.jp)



## あなたのお悩み，解決します！ ～わたしの考えたこと～ 4年生

### 1 単元の構想

学習指導要領の指導事項との関連

〔知識及び技能〕 第3学年及び第4学年 (2) 情報の扱い方に関する事項

ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕 B 書くこと

ア 相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。

〔思考力・判断力・表現力等〕 C 読むこと

ア 段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。

クラスの実態として，以下のような様子が見られる。

- 4年生として，上学年の仲間入りをしたことを肯定的に受け止めている子どもが多い。集団性が芽生え，「学級のため」「みんなで」頑張りたい気持ちを持ち始めている。
- 調べ学習を好む子どもが多い。また，知った情報を誰かに知らせたいという気持ちも強い。
- 兄弟学年である2年生との交流では，2年生と仲良くなるためにどんな交流活動をすればよいか考え，交流会を開くことができた。実際の活動では，上級生として2年生に接することに充実感を得ている様子が見られた。「またやりたい。」「もっと仲良くなりたい。」という気持ちを抱いている子が，とても多い。
- ▲ 話を最後まで聞かず，自分の意見を話し出してしまうことがある。友達の見解を途中で遮って話し始めてしまう様子も見られた。
- ▲ 相手が納得できるように，自分の考えを伝えることが苦手である子どもが見られる。
- ▲ 作文を書くことに対して，抵抗感がある子どもが複数見られる。
  - ・ 新聞を使った学習活動を好む子どもが多い。しかし，記事の内容を詳しく読む力に差がある。

新学習指導要領の国語科における指導事項〔思考力・判断力・表現力等〕第3学年及び第4学年B書くことアでは，相手や目的を意識して書くための材料を選ぶ，選材の力を育成することが示されている。本単元では，この選材の力を育成したいと考えた。

そのためには，相手と目的が明確で，子どもが進んで選材し，書きたくなるような言語活動を設定する必要があると考えた。そこで，本単元では伝えるべき相手が明確であり，自分の考えを思わず相手に伝えたいよう，「下級生の悩みに答える文章を書く」という言語活動を設定することにした。その際，複数の文章を基に選材の効果を考えることが必要と考えた。これは，〔知識及び技能〕第3学年及び第4学年(2)情報の扱い方に関する事項アと，〔思考力・判断

力・表現力等] 第3学年及び第4学年C読むことアと関連する。

本単元の言語活動…2年生のお悩みに答える新聞記事「大勢の中のあなたへ」を書く。

本単元では、2年生のお悩み解決をする新聞記事「大勢の中のあなたへ」の文章を書くことを言語活動のゴールとする。この文章を書くためには、2年生に伝えたいことが伝わる適切な事例は何かを比較したり分類したりして考え、よりよい事例を選ぶことが必然となる。こうした新聞記事「大勢の中のあなたへ」の文章に入れる事例を検討し、選ぶ活動を複数回行うことで、相手や目的を意識して書くための材料を選ぶ力を単元で育成することができるようにした。

また、本単元が終了する際に、相手や目的を意識して書くための材料を検討することで、伝えたいことが相手に伝わる文章を書くことができた、と子ども自身が感じられる学びにしたいと考えた。

そのためには、自分の伝えたいことが相手により伝わったことを実感できるような手立てが必要であると考えた。そこで、自分たちが書いた新聞記事「大勢の中のあなたへ」の文章を、2年生に実際に読んでもらう場を設けることで、自分の書いた文章が、相手に伝わったのかどうかを実感できるようにした。

## 2 本校研究との関連

【研究テーマ】 対話的な学習活動を通して学びをつなげる国語科授業の創造  
— 「情報の扱い方」に着目して —

本校国語科プロジェクトでは、「参照する力」を付けるため、言葉を含む広義の「情報」に含まれる、操作的な見方や考え方に着目して研究に取り組んでいる。

国語プロジェクトでは、参照力を付けるための9年間の学びの道筋について、子どもの発達段

表1：国語プロジェクトが目指す段階的な学びの姿

小学校	中学校
<p>【第1段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報を理解し、共通点や相違点を考える。</li><li>・情報の順序について理解する。</li></ul>	<p>【第1段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・意見と根拠を区別してとらえる。</li><li>・情報を比較し分類する。</li></ul>
<p>【第2段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報を比較し分類する。</li><li>・自分の考えや表現に必要な情報を選択する。</li></ul>	<p>【第2段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報と情報との様々な関係をとらえる。</li><li>・効果的な表現を想定し、情報と自分の表現との関連性を吟味する。</li></ul>
<p>【第3段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報と情報とのつながりや関係をとらえる。</li><li>・自分の表現や目的に応じた情報の組み込み方を理解する。</li></ul>	<p>【第3段階】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報の信頼性の確かめ方について理解する。</li><li>・情報を適切に示しながら、論理的に自分の考えを展開する。</li></ul>

階を考慮し表1のように設定した。これは、「情報の扱い方」に関する指導事項を視野に入れつつ、「参照」に関わる諸技能を段階的・系統的に扱えるよう意図したものである。ただし、言葉の力の習得には反復性や他の諸能力との関連性が強く認められるため、表1においてもそれを反映させている。また、子どもの実態や学級の実態に応じて柔軟に援用することを意識して授業の構想を行った。

これを受けて、小学部では以下の2つの方策を立て研究を進めている。

### **(1) 情報活用の必然性がある単元設定**

本単元における情報とは、事例である。

「2年生のお悩みを解決してあげたい」という思いを子どもが持つことができるようにするために、単元の導入において、2年生のお悩みについて示したり、その回答になる新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読んだりする場を設定した。

また、2年生のお悩みに対する回答である、新聞記事「大勢の中のあなたへ」の文章を書くためには、「2年生にとって分かりやすく、より伝わる事例は何か」など、事例と事例を比較し、選ぶという、情報を活用する力が求められる。第2次でこの力が育成できるように単元を展開することにした。

### **(2) 操作的な見方や考え方を意図した学習活動の工夫**

本単元では、表1：プロジェクトが目指す段階的な学びの姿「小学校【第2段階】自分の考えや表現に必要な情報を選択する。」を単元で身に付けたい事項として設定した。

この選択する力を育成するために、第2次でどのような事例が挙げられているか分類したり、より伝わる事例は何か比較したりする活動を取り入れた。その際に、全体で話し合う場と、個人で考える場を段階的に設定し、子どもたちの選材の力が高められるようにした。

単元展開においては、第2次で新聞記事「大勢の中のあなたへ」の回答に適切な事例を選ぶ活動を複数回設定するようにした。学んだことを基に、繰り返し選材する機会を持つことで、お悩みに答えることを楽しみながら、段階的に事例を選ぶ目を育てていくことができるようにした。

## **3 新聞活用の視点（NIEとの関連）**

### **(1) 2年生のお悩みに答える新聞記事「大勢の中のあなたへ」を書くという言語活動の設定**

朝日小学生新聞に掲載されている新聞記事「大勢の中のあなたへ」を自分たちで書くという言語活動を設定した。

導入では、様々な2年生のお悩みを提示する。ある2年生のお悩みに対して、解決方法を提示する新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読む。このことで、新聞記事「大勢の中のあなたへ」の形式で、2年生のお悩み解決をするという学習の課題を理解できるようにする。それとともに、「2年生のお悩み解決をやってみたい。」「この文章を書いてみたい。」という子どもたちの意欲を喚起し、学習の推進力となる効果を期待している。

## (2) 複数の「大勢の中のあなたへ」の文章を検討し、事例の種類と効果に気付くこと

新聞記事「大勢の中のあなたへ」を自分で書くために、回答に取り入れる事例について検討する場を展開において設定した。複数の新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み、気付いたことを話し合う活動を行うことで、文章構成について理解するとともに、事例の種類とその効果について気付くことができるようにした。事例には、自分が失敗した経験、自分が成功した経験、人から聞いた話、本や新聞に書いてあったこと、ニュースになったことなどが挙げられる。お悩みによってどの事例を取り入れれば2年生がより納得できるのかは異なるため、様々な事例とその効果について、複数の新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読むよう促すことで気付かせていきたい。

## (3) 新聞記事から事例を見付けること

2年生のお悩みの回答に使えるような事例を考える際、新聞から事例を見付けることが想定される。見付けた新聞記事を事例として回答に使うことで、説得力が増すという効果を実感できるよう期待している。

## 4 指導案

### 【単元の目標】

2年生のお悩みが解決するよう、適切な事例を選んで、新聞記事「大勢の中のあなたへ」を書くことができる。

### 【単元の評価規準】

- 2年生のお悩みに対する回答者の考えと、事例との関係について捉えている。  
(知識・技能(2) 情報 ア)
- 2年生のお悩みが解決するよう、適切な事例を選んだり、表現の仕方を考えたりして自分の考えを書いている。  
(思考・判断・表現 書くこと ア)
- 自分の考えを2年生に伝えるために、事例の種類やその効果と表現の仕方について、複数の新聞記事「大勢の中のあなたへ」の文章を比較しながら読んでいる。  
(思考・判断・表現 読むこと ア)
- 2年生のお悩みを解決することに関心を持ち、進んで新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読んだり、適切な事例を選んで書いたりしようとしている。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 【単元の展開(総指導時数 10時間)】

#### 第1次(2時間)

- (1) 2年生のお悩みを知り、新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読む。「2年生のお悩みを解決するために、新聞記事『大勢の中のあなたへ』を書く」という学習の見通しを持つ。

(2) 自分が答えられそうな2年生のお悩みをいくつか選ぶ。

#### 第2次（7時間）

(3) 新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み、思ったことや気付いたことを話し合う。

(4) 新聞記事「大勢の中のあなたへ」を累積し、読み比べて気付いたことを話し合う。

(5) 複数の新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み比べ、事例の効果や表記について話し合う。（本時）

(6) 自分が選んだ2年生のお悩み回答に使えるような事例を集めたり、考えたりする。

(7)(8) 自分が選んだ2年生のお悩みに回答する新聞記事「大勢の中のあなたへ」を書く。

(9) 書いた新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み合い、推敲する。

#### 第3次（1時間）

(10) 書いた新聞記事「大勢の中のあなたへ」を2年生に読んでもらい、交流する。

### 【本時の指導】

(1) 題目 集めた記事の、お答え理由を読み比べよう

(2) 目標

○ 新聞記事「大勢の中のあなたへ」における複数の事例を読み比べ、その効果や表記について考え、自分が選んだお悩みに適切な事例を選ぶことができる。（読ア）

(3) 授業の観点

本時の目標に迫るために以下の手立てを講じたことは有効であったか。

○ 例示した新聞記事「大勢の中のあなたへ」の事例の効果や表記について全体で検討した後、それと比較しながら今まで累積した新聞記事「大勢の中のあなたへ」の事例を見付けたり、それらの効果や表記について比較するようしたりしたこと。

(4) 展開

学習活動	支援と評価
1 前時を振り返り、学習課題を声に出して読む。 集めた記事の、お答え理由を読み比べよう。	○ 2年生のお悩みに対して、新聞記事「大勢の中のあなたへ」を書いて答えるという言語活動を設定することで、2年生のお悩みを解決するために、相手に伝わる事例について考えようとする気持ちを高めることができるようにする。 ○ 前時までの学習を振り返りながら構成について板書で示すことで、事例が書かれているところを視覚的に理解できるようにするとともに、事例に注目して気付いたことを話し合うことができるようにする。
2 新聞記事「大勢の中のあなたへ」の事例について、気付いたことを話し合う。 (1) 前時に提示した記事について話し合う。 ・ 答えている先生が、子どもの頃のことを思い出して書いているね。 ・ 塾の先生の話を紹介しているよ。 (2) 累積した記事を比較しながら話し合う。 ・ 僕の見付けた記事には、自分が実際試し	

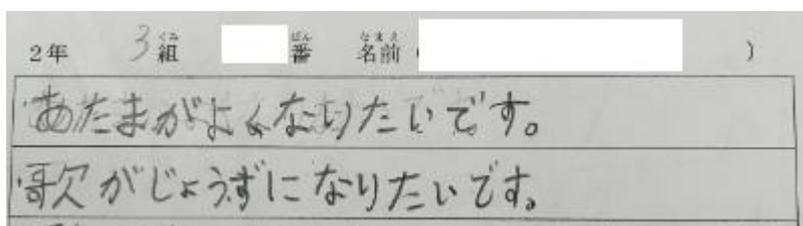
<p>てみたことが書いてあった。本に書いてあったことを実際にやってみて、できたって書いてある。これなら納得できるな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私の記事はちょっと違って、「速く泳ぎたい」という悩みに、専門家の意見を紹介していたよ。自分がそれを試した感想も書いていて分かりやすいと思った。</li> <li>私の記事には「子どもの頃は、こんなことができなかつたよ」って書いてある。私もだなんて安心するなあ。</li> </ul> <p>3 2年生のお悩みに対する自分の回答に、どんな事例を入れたいか考え、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「忘れ物が多い」というお悩みには、忘れ物をしていない子から聞いたコツを伝えてあげよう。</li> </ul> <p><b>おおむね満足な様相</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「友達と仲良くしたい」というお悩みには、ぼくが2年生だった頃のことと、新聞に書いてあった友達と仲良くできる方法を書いてあげたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 例示した新聞記事「大勢の中のあなたへ」に使われている事例について全体で検討する場を設け、「累積した他の記事の事例はどうか」と問いかけることで、例示した事例と比較しながら、累積した記事の事例の効果と表記について考えることができるようにする。</li> <li>○ 見付けた事例について、「それを読んだ人はどう思うか」と問いかけることで、その事例を使って回答した時の効果について考えることができるようにする。</li> <li>○ 全体での話し合いを基に、複数の新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み比べ、使われている事例とその効果について考える場を設ける。このことで、お悩みによって事例を使い分ける必要性に気付くことができるようにする。</li> <li>○ 文末表現など文章の表現の仕方について問いかけることで、その効果について考えることができるようにする。</li> </ul>	
<p><b>〈評価基準〉 おおむね満足</b></p> <p>2年生のお悩みに対して、2年生にとって理解できる身近な事例を選んでい</p> <p>(読ア) (ノート・発言)</p>	<p><b>十分満足</b></p> <p>おおむね満足の様相に加えて、表記の仕方を工夫しようとしている。</p>	<p><b>努力を要する子どもへの支援</b></p> <p>似た経験がないか問いかけたり板書の事例の中から選ぶよう助言したりすることで、事例を選ぶことができるようにする。</p>

## 5 授業の実際

### 第1次

① 2年生のお悩みを知り、新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読む。「2年生のお悩みを解決するために、新聞記事『大勢の中のあなたへ』を書く」という学習の見通しを持つ。

4年生でこれまでに学習した「みんなで新聞を作ろう」では、実際の新聞に触れてどのような記事が掲載されているか話し合った。その際、お悩み相談の記事が載っていることに気付いた子どももいた。「お悩み相談」に対し興味を持った様子であった。その時のことを想起させながら、2年生のお悩みを1つ紹介した。



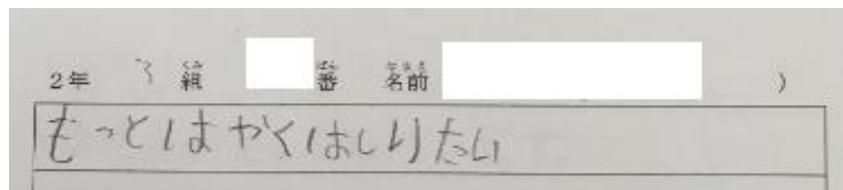
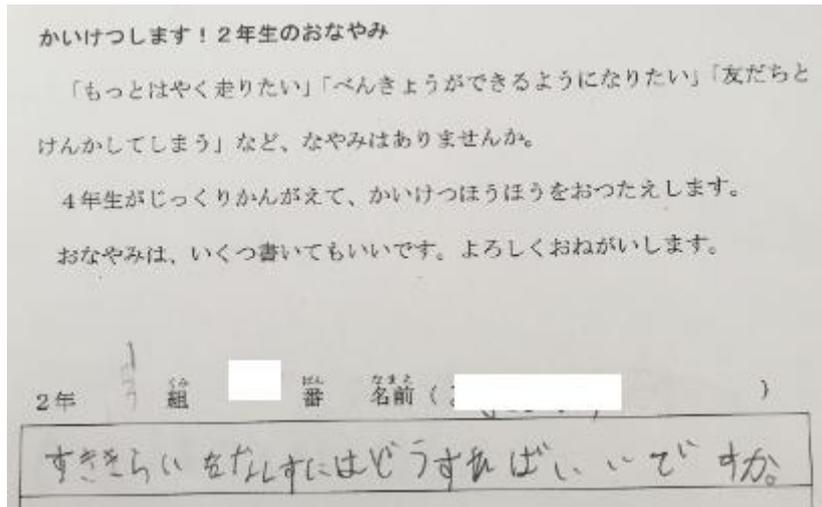
「頭がよくなりたい」というお悩みに対し、回答を考え、発表し合った。例えば、「繰り返し問題を解く。」「いろいろな種類の本を読む。」などである。子ども達の回答の後、「頭がよくなりたいあなたへ」というタイトルで書かれていた新聞記事「大勢の中のあなたへ」を全員で読んだ。「紹介した新聞記事『大勢の中のあなたへ』のように2年生のお悩み回答を書いてみよう」と投げかけた。

② 自分が答えられそうな2年生のお悩みをいくつか選ぶ。

前時に「紹介した新聞記事『大勢の中のあなたへ』のように2年生のお悩み回答を書いてみよう」と投げかけたため、「どんなお悩みがあるのかな」と子ども達は関心が高い様子であった。実際に兄弟学級の2年生が書いたお悩みを読む前に、「誰がどのようなお悩みを抱いているのかは秘密にすること」「悩んでいることに対し、誠実に向き合うこと」を、気を付けることとして押さえた。お悩みとして挙げたものを以下にいくつか示す。

- ・ どうすれば音読が上手になるか知りたい。
- ・ もっと早く走りたい。
- ・ 勉強が好きになりたい。
- ・ もっと字がきれいになりたい。
- ・ テストでいつも100点取りたい。
- ・ 友達となかよくしたい。
- ・ 友達をふやしたい。
- ・ サッカーがうまくなりたい。
- ・ 野菜を食べられるようになりたい。





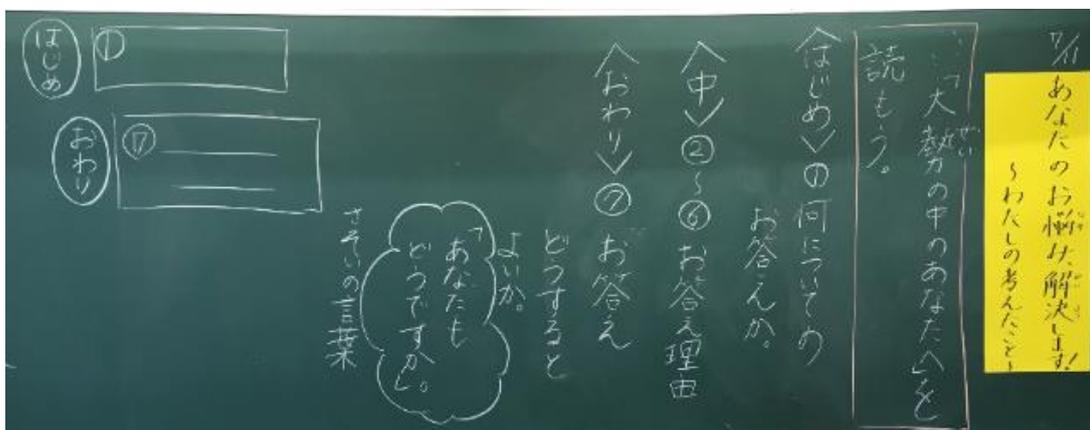
お悩みを読み始めると、「これ、わかる！」と声を上げたり、「これなら答えられそう」「これは〇〇さんが答えられそうじゃない」と話したりしている様子が見られた。自分が答えられそうなお悩みをいくつか見繕い、ノートに記録するようになった。

## 第2次

### ③ 新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み、思ったことや気付いたことを話し合う。

二次では、自分が回答を書くときにどのようにすればよいか、新聞記事「大勢の中のあなたへ」を基に考えられるようにした。

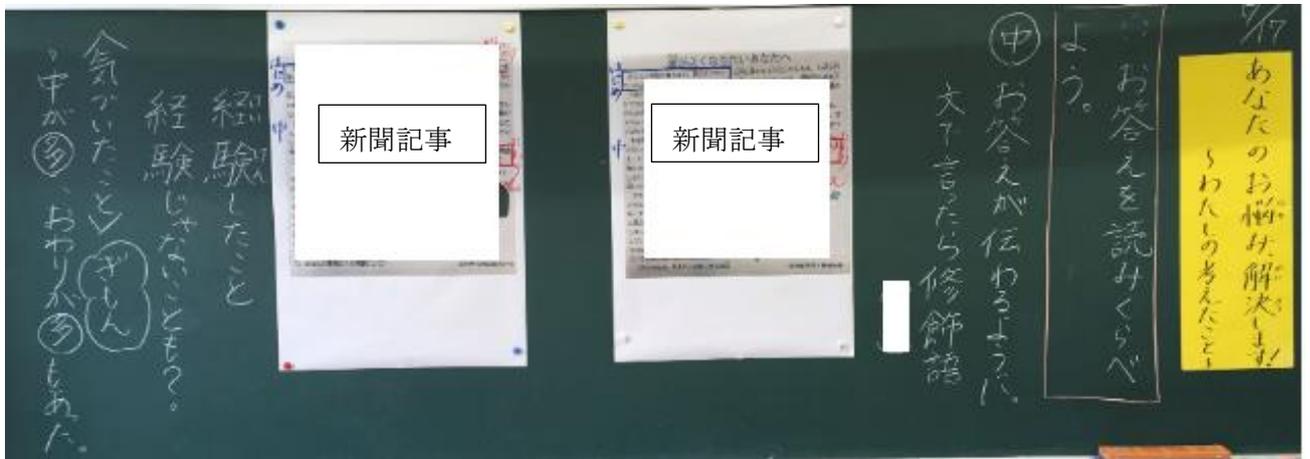
導入で紹介した「頭がよくなりたあなたへ」というタイトルで書かれていた新聞記事「大勢の中のあなたへ」を音読し、気付いたことを話し合った。文章の内容面として、「お悩みの答えが最後のところに書いてある」「説明の文と似ている」「中に、たくさんどうしてそうするとよいかという理由が書かれている」などが子ども達から挙げられた。また、「〇〇してはどうですか」と呼び掛けているなど、文章の表記の仕方に気付いた子どももいた。



④ 新聞記事「大勢の中のあなたへ」を累積し、読み比べて気付いたことを話し合う。

他の新聞記事「大勢の中のあなたへ」ではどうなのか、記事を累積したり、読み比べたりした。予定とは異なり、累積で1時間、検討で1時間かかった。

自分の回答に参考になりそうな新聞記事「大勢の中のあなたへ」を見付け、累積した。いくつかの新聞記事「大勢の中のあなたへ」を読み比べ、気付いたことを話し合った。子どもからは、「はじめ・中・終わりになっている」「はじめの文章は、どの記事もほとんど同じ」「中にお答え理由がいろいろ書いてある。経験したことが書いてあるのではないか」「終わりのところは長い文章であるものも、短い文章であるものもあった」などが挙げられた。中に書いてあることについて、新聞記事を読み比べ話し合うと、「経験したこと以外が書いてあるものもある」と話した子どもが見られた。そこで、次時は、「中に書いてあること」について詳しく読むよう伝えた。



それぞれの机の上に1部ずつ朝日小学生新聞が置いてある状態で、新聞記事を読んでいる様子。

まずは、自分の机上の朝日小学生新聞に掲載されている新聞記事「大勢の中のあなたへ」を見付け、読む。その後、他の友達の机の上に置いてある朝日小学生新聞を読んでいくようにした。



↑参考になりそうな新聞記事「大勢の中のあなたへ」を見付け，ipad で撮影→印刷→累積した（他クラスでも使用するため）。新聞の部数が十分にある場合は切り貼りのほうが効率的である。





主催：宇都宮大学教育学部附属小学校  
 共催：宇都宮大学教育学部  
 後援：栃木県教育委員会・宇都宮市教育委員会

# 授業力UPセミナー 2019.8.9 (FRI)

## ■明日の授業に役立つ！

### 各教科等のワークショップ講座

#### ■講演会

宇都宮大学 人見 久城 先生

今年度で4回目のセミナーです。昨年度も大好評でした。

#### 【昨年度の参加者アンケートより】

- ・様々な講座の中から選んで参加できてよかった。
- ・参加型の講座で楽しく学べた。
- ・教えてもらったことをすぐに実践したい。
- ・多くのネタ・技術をもたらえた。
- ・映像や資料がとても分かりやすかった。



今年度も先生方の日々の授業に役立つように、裏面の通り様々な講座を開きます！

会場：宇都宮大学教育学部附属小学校

日時：令和元年8月9日(金) 9:00受付開始 14:30終了予定

参加費：1000円

申込み：ワークショップ（宇都宮大学教育学部附属小学校のHPから書式をダウンロード）  
 メール（右のQRコード または本校HPにあるメールアドレスにて）



※ 定員の都合で、定員200名になり次第、申込みを締め切らせていただきます。申込みをお断りする場合は、ご連絡を差し上げます。

※ 当日は上着を着替してください。飲み物はペットボトル容器をお断りしますが、必要に応じて水筒等をご用意ください。なお、お弁当の廃棄(100円)を受付時間中に廃棄します。

問合せ：(028-621-2291 (担当 教頭 林田)

宇都宮大学教育学部附属小学校 授業力UPセミナー 2019.8.9(FRI)

## 講演・講座内容

受付開始 9:00~9:25 (早登昇降口)  
 開 会 9:30 (大会議室)

講演 9:40~10:40



宇都宮大学大学院教育学研究科 教授 人見 久城 先生

### 「理科授業で大切にしたいこと」

講座 1 ① 11:00~11:20 ③ 13:30~13:50

②④の時間前に以下の講座から選んで参加ください

 <b>国語科</b> 人見 眞理 「まるごと普段の授業」	 <b>算数科</b> 松澤亮樹、櫻井昭洋 「算数の世界を体験してみよう」	 <b>社会科</b> 川上 剛 「社会科おもむけるアイデア集」
 <b>音楽科</b> 関口 真実 「楽しい音楽づくり&鑑賞アイデアワークショップ」<下学年>	 <b>理科</b> 石川 敏子 「簡単！楽しい！理科実験のコツ」	 <b>図画工作科</b> 笹竹 大樹 「体験！絵の具のよさに気付ける活動」
 <b>道徳科</b> 平山 勇樹 「道徳的思考でつくる、考え議論する道徳の授業」		
<b>講座 2 ② 11:40~12:00 ④ 14:10~14:30</b> ②④の時間前に以下の講座から選んで参加ください		
 <b>国語科</b> 柳川 真人 「楽しく学ぶ！低学年の国語指導！」	 <b>社会科</b> 吉羽 敏昭 「普段の授業にチャイナしてやってみる話し合い活動」	
 <b>音楽科</b> 福田 麻菜美 「音楽づくりにチャレンジ！」 ~つなばりて・重ねて~<上学年>	 <b>学級活動</b> 大塚 智大 「合部形成を目指す話し合い活動」	
 <b>家庭科</b> 石崎 由紀 「実習前に取り入れると効果的！」 ~話し合い活動 カード編~	 <b>体育科</b> 大出知明、関口健一 「みんなが楽しめる 教材教員の工夫」	
 <b>生活科</b> 福田 耕平 「活動あつて字あり！」の生活科授業」	 <b>英語科</b> 南 勇輔 「授業ですぐに使える！英語指導のネタ紹介」	

昼 食 12:00~13:30  
 弁当を700円で販売いたします。前のうちに食券をお買い求めください。

講座1から2つ、講座2から2つ、計4つの講座に参加できます！